OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大学と公衆衛生
Author(s)	磯, 博康
Citation	大阪公衆衛生. 2008, 79, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83431
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻頭言

大学と公衆衛生

大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学
教授　磯 博康

大阪公衆衛生協会は、昭和26年に大阪大学医学部公衆衛生学教室の初代教授に就任された関悌四郎先生の呼びかけで設立されたと聞いております。平成17年に教授就任した私が半世紀を超える歴史のある協会誌の巻頭言を書かせていただくことは光栄の至りです。

本協会設立から現在にかけ、大阪の公衆衛生を取り巻く環境は大きく変わっています。昭和20年代には結核、昭和30年代には脳卒中、胃がんが猛威をふるっていた時代にありましたが、公衆衛生の諸先輩方のご尽力により、全国に先駆けて大阪府立成人病センター、母子保健総合医療センター、健康科学センター等が設立され、公衆衛生対策の進展や老人保健法制定等の公衆衛生施策に大きく貢献したことは、大阪の公衆衛生の金字塔と言えるでしょう。

その間、日本人の平均寿命は大きく伸延し、世界一の長寿のみならず健康寿命の長い国としての地位を得ました。一方で世界に類を見ない急速な高齢化と少子化に直面し、さらに経済成長の長期停滞等から、国は財政再建に追われ公衆衛生関連領域においても近年様々な制度改革を打ち出しています。平成12年の介護保険法、平成15年の健康増進法、平成17年の食育基本法、平成19年のがん対策基本法が施行され、そして平成20年度からは医療制度改革です。

平成19年10月に愛媛で開催された日本公衆衛生学会総会(会長:小西正光)のテーマは、「地域保健―その原点に返り未来を展望する」でありました。学会長は、四国88か所のお遍路の国で、この長い歴史の中で育った「お接待のこころ」とほんの少しの「お節介のこころ」こそが、公衆衛生マインドであり公衆衛生活動の原点と述べられています。学会では、医療制度改革の様々な課題や将来の地域保健展望について活発な議論がなされましたが、今後とも公衆衛生関係者の議論、評価の継続が肝要です。大阪公衆衛生協会は、府内の公衆衛生関係者に議論の場や勉強の機会を提供する重要な役割を担っています。

ところで、平成19年度から大阪大学医学部医科学修士課程において、複雑化する健康、医療の国内外の諸問題に柔軟に対処できる知識、技能、倫理観、応用力、指導力等の涵養の目的とした、大学院教育改革支援プログラム「医科学修士の健康医療問題解決能力の涵養」(実施責任者:磯博康)を開始することになりました。平成20年度からは社会人にも門戸を開き、公衆衛生に従事する若手、中堅の方々(医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師等)の社会人に対する教育プログラムを提供します。協会の保健計画部会を担当している高鳥毛敏雄先生も特任教授の一人として本教育に携わります。

わが国の公衆衛生は様々な変革と課題に直面しています。先人のご努力によって培われてきた大阪の公衆衛生マインドを絶えさせることなく、大学と現場の皆様と力を結集し、大阪から全国に発信できる公衆衛生の醸成をめざしたいと考えています。協会会員の皆様のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。